

第3回 白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会

令和3年3月17日(木) 開催

「白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会」では、自宅での療養が必要になっても、認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしが続けられることを目指して、医療・介護職、民生委員、警察・消防等の委員が、様々な課題の解決に向けた検討を行っています。協議会の活動詳細および議事録については、市ホームページにてご覧いただけます。

●●● 第3回協議会の主な内容 ●●●

在宅医療・介護連携推進事業の枠組みを活用した災害対策について検討を行いました。

近年の災害の発生状況や、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、介護事業所等と連携した防災や感染症対策についての周知啓発、研修や訓練の実施、災害・感染症発生時の支援・応援体制の構築に向けた取組みが必要となっています。

また、医療依存度や介護度の高い在宅療養者にとっては、災害への日頃の備えの重要性が増しており、療養者本人や家族だけで対策を考えるのではなく、支援する医療や介護関係者も加わり、災害時支援計画を考えておく必要があります。

このような取り組みを進めていくための具体策について検討しました。災害時や感染症対策についての研修会の実施、平時の避難訓練や安否確認訓練の開催、電源喪失時の電源確保対策等、様々な意見を伺いました。今後も検討を継続していきます。

令和3年3月より、ICTを活用した多職種連携情報共有システムを導入しました！

これまでは

患者さんの情報共有について、対面・電話やFAX/郵送等の紙媒体による方法が中心でした。場所や時間に左右されるため、タイムリーな情報共有が難しく、またFAXや郵送の場合、個人情報漏洩リスクが高い等、課題がありました。そのため市では、市内医療・介護等関係者とICT導入に向けた検討を進めてきました。

これからは

セキュリティ対策が整った専用クラウド内で、療養の様子やバイタルサインをタイムリーに共有できるため、多職種間の情報共有が図りやすくなります。まずは、市内2か所の在宅療養支援診療所の患者さんの登録を開始していきます。

